

(様式1)

視 察 報 告 書

令和元年6月26日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 建設水道委員会
委員長 長坂 則翁



本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

記

| | |
|----------------|---|
| 1 期 間 | 令和元年5月13日から令和元年5月15日まで |
| 2 派遣先 | 山口県山口市 福岡県太宰府市 広島県呉市 |
| 3 視察内容 (調査) | 山口県山口市 ・浸水対策について 福岡県太宰府市 ・歴史的まちづくりについて 広島県呉市 ・平成30年7月豪雨への対応と復旧について |
| 4 派遣委員 の氏名 | 長坂 則翁 委員長 石田憲太郎 副委員長 足立 考史 委員 荻野 正己 委員 秋山 智博 委員 西村紳一郎 委員 砂田 典男 委員 上杉 栄一 委員 |
| 5 委員会 所見 | 別添のとおり |
| 6 参加者 所見 | 別紙のとおり |

(別添 委員会所見)

| | |
|-------|--|
| 視 察 先 | 山口県山口市 |
| 調査項目 | 浸水対策について |
| 所 見 | <ul style="list-style-type: none">・ 山口市の浸水対策について、可能な限り被害を軽減するという「減災」へと発想の転換を行った点に注目した。それは、対策の基本方針を「ながす」(従来型のハード対策)に加え、「ためる」(新たなハード対策)と「そなえる」(ソフト対策)という3本柱の対策へと発想転換し、実行している。これは今後の鳥取市の浸水対策を考える上で、大いに参考になる事例と感じた。また、下水道所管はもとより、全庁的な取り組みとして市民にも理解しやすいと感じた。・ 市民の安心・安全を確保するために全庁的な事業と捉え、関連部署の連携を強化し、スムーズに事業が遂行できるよう総合浸水対策室が設置されており、効率的な事業展開が参考になった。・ 浸水対策については、道路・河川なども大いに関係しており、単に下水道部の問題ではなく、全庁的に取り組む必要性を痛感した。 ・ 本市においても近年の地球温暖化による異常気象の中で予期せぬ災害が発生することを想定し、浸水対策を考える必要がある。山口市の「ためる」すなわち雨水貯留施設などの設置等検証に値すると考える。・ 「ためる」ことの発想によって、流れの時間差を生み、被害の軽減・分散が可能となっている。「ためる」貯留施設の上部は公園など市民生活に有意義に活用される。・ 農業用水の樋門開閉は豪雨の際に調整すべき施設であるにも関わらず、老朽化や管理を委託している市民の高齢化により困難になってきた事を機に樋門開閉を市役所からの遠隔操作によって自動に行えるよう整備された。これらのハード整備は本市にとっても見習うべき有効な事業である。・ 雨水貯留施設について本市もこのような考え方に基づいて整備を図っていただきたいと考えた。また、取水ゲートの遠隔操作について、担当がいざというとき不在であったり、高齢のために作業ができないといった現状があるため、本市でも検討すべき事項ではないかと感じた。 ・ 山や水田などの林地、農地が雨水を貯留・浸透させてきたが、宅地化により、降った雨がそのまま水路に流出し、流すべき河川も満水状態となり、以前と同程度の雨でも浸水被害が発生しやすい状況となっている。本市に置き換えてみると、森林整備、水田の保全の重要性を浸水被害防止対策として認識した。 |

| | |
|-------|---|
| 視 察 先 | 福岡県太宰府市 |
| 調査項目 | 歴史的まちづくりについて |
| 所 見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 太宰府市で特徴的なことは、(1) 太宰府市民遺産活用推進計画(歴史文化基本構想)と、(2) 太宰府市景観まちづくり計画並びに(3) 太宰府市歴史的風致維持向上計画という3計画を動かしていく主体として市民・事業者及び行政の共同組織である太宰府景観市民遺産会議を設定し、計画の実施体制を組んでいた。このような重層的な位置づけや体系は大いに参考にすべきと感じた。 ・ 全国的に名高い歴史的遺産を保有されている太宰府市の街づくりのコンセプトを市民と一緒に作り上げることを第一義とされ、市民・事業所・行政の連携、その行政も都市整備と文化財の連携を密にして歴史的街づくりに取り組まれていることは大変参考になった。 ・ 歴史的風致維持向上計画の認定を景気に歴史的まちづくりへの機運が高まり、太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会が発足され、門前のまちづくりを住民・行政が一体となって取り組んでいた。この協議会は住民代表と太宰府天満宮、大学、太宰府市で構成され、行政と協働で住みよい環境、憩えるまちを創り出していくことを目指しており、このような組織はまちづくりには欠かすことができないと改めて感じた。 ・ 32万石の城下町である本市では、鳥取城跡復元工事も実施されており、周辺道路も整備が進んでいるが、今後は城下町を生かしたまちづくりが求められている。とりわけ全国的にみると、H31年3月末現在76都市で「歴史的風致維持向上計画」が策定され、国の認定を受けている。本市にとっても、国の補助率1/2という有利な財源を活用するためこの策定を検討すべきと考える。 ・ 天満宮参道周辺の視察では、店舗・住宅など古と今が融合した一体感ある街並み整備がされていると実感した。当日は平日にも関わらず休日のような混雑ぶりを見せており、魅力あるまちづくりが功を奏していると実感した。 ・ 現地視察した際、観光客の多さと外国にいるような錯覚するほどの外国人の多さに驚いた。インバウンドの受け入れ整備としてバスの駐車場整備をされたようで、観光地には駐車場は欠かせないアイテムであり、本市の城跡近隣に駐車場不足は喫緊の課題である。 ・ 太宰府天満宮の玄関口である私鉄駅舎が天満宮を模倣されていた。説明されていた三位一体の取り組みであり、参道の街並みも天満宮全体の情緒と一体化していた。 ・ 門前町には、古い木造の建物も多く、2階や3階が活用されていない建物も多いため、これらの建物の保存と活用が今後の課題であるとのこと。本市でも「歴史的まちづくり」についての議論はあるが、2度にわたる地震と大火で古い町屋や武家屋敷の多くが失われている状況では、面的な取り組みは難しいのではと考える。 |

| | |
|-------|--|
| 視 察 先 | 広島県呉市 |
| 調査項目 | 平成30年7月豪雨への対応と復旧について |
| 所 見 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 甚大な災害に遭われた皆様のご苦労は計り知れないが、電車の窓からいまだブルーシートがかかっている家があちこちで見えた。いまだに災害前の生活に戻れていない状況で、被害の大きさを物語っていた。その中で、水はライフラインの最も欠かせないもので、さらなる災害に強いインフラ整備と緊急時対応の見直し事項が参考になった。 ・ 本市水道局も簡易水道施設を管理しているが、計画的な施設整備計画が示されているが可能な限り早期の整備が望まれる。 ・ このような災害は当該自治体だけでは対応しきれず、応援・支援がなければ応急対応さえもはかどらないとのことで、いち早く連携網が構築できるように備えておくことだと思った。また、発災直後の3日間をどう乗り切るかが問題とのことで、今後のシミュレーションや訓練に取り入れるべきだと感じた。 ・ 給水拠点の設置について、道路被害等で初動時に計画通りにできなかったことが今後の課題ということで、本市においてもあり得ることとして想定しておく必要を感じた。 ・ 給水車のピストン輸送は効率が悪いことから、効率的な応急給水のため仮設給水槽を給水拠点に設置し、加圧装置付給水車を巡回させて充水する手法は、被害が広範囲で甚大な場合は給水時間の短縮に非常に効果的であると感じた。 ・ 給水拠点に向くことが難しい高層階や高所地からの給水の個別要望や苦情が多く寄せられたとあり、対策を講じておく必要を感じた。 ・ 呉市の場合は、原水のほとんどが太田川に依存しているため、給水管等が被災した場合、全市の水道に影響が及ぶ。リスク分散のための別の水道原水の確保や、送水管の複数ルートが必要ではないかと考えた。本市でも、水道原水は千代川の伏流水、浄水施設は江山浄水場の1か所である。地震、豪雨等による被害を最小限にとどめるためにも改めて施設の強靱化を取り組む必要があるのではと考える。 |